

授業科目（ナンバリング）	調剤Ⅱ（事前学習）（NF414） （実践的教育科目）		担当教員	大磯 茂*・早川 正信*・室 高広*・ 神田 紘介*・大久保 伸哉*・末廣 真理恵*・ 中島 健輔*・高崎 伸也 （※実務経験のある教員）			
展開方法	講義/演習/ 実習	単位数	3 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
卒業後、医療、保健活動に参画できるようになるために、薬局および病院における実務実習に先立って、院内製剤・薬局製剤、無菌操作、医療安全管理における感染予防に関する基本的知識、技能、態度を修得する。							①②④⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な疾患における注意すべき生活指導項目を列挙できる。 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などを評価できる。 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理、薬局製剤・漢方製剤などについて説明できる。 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。 感染予防の基本的考え方とその方法を説明できる。 無菌操作の原理を理解し、基本的な無菌操作を実施できる。 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。 				筆記試験 実技試験	60% 30%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> グループ討議により作成したプロダクトを適切に発表できる。 他グループの発表に対し質問やコメントを適切にすることができる。 				グループ討議・プレゼンテーション	5%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 提示された症例の問題点を指摘し、その解決策をディスカッションにより提案できる。 				課題レポート	5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験と実技試験から成る随時試験の結果、レポート、小グループディスカッション（SGD）およびその発表により評価する。 筆記試験は、講義、演習・SGD および実習で行うすべての項目を出題範囲とする。 実技試験は、衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションのシミュレーション、基本的な無菌操作およびケミカルハザード回避手技のうち、指定する1つ以上の項目の手技の習得度を評価する。 レポートは、SGD 実施日から1週間以内にポートフォリオに提出されたものについて、自分なりの視点をもって論理的に書かれているかを評価する。指定条件を満たさない場合並びに誤字・脱字は、減点の対象とする。 レポートおよびポートフォリオ課題のフィードバックをポートフォリオで行う。 							
授業の概要							
<p>病院または薬局における薬剤師としての実務経験を有する教員が、その経験を講義、演習・SGD 及び実習に活かし、5 月末から 7 月にかけて、講義、演習・SGD、実習が一体化した形式で授業を行う。必要に応じてプリントを配布する。SGD 後にレポート提出を課す。実習による授業内容については、事前に実習書を配布する。また、理解を深めるために、ポートフォリオへの演習問題の出題やその解説を行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、講義として行うものは112.5分、演習として行うものは45分、実習として行うものは45分とする。</p>							

教科書・参考書

教科書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤(東京化学同人):教科書①
 スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践(東京化学同人):教科書②
 参考書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画(東京化学同人)、
 調剤学総論改訂 12 版(南山堂)、臨床調剤学(南山堂)、調剤指針第十三改訂(薬事日報社)
 指定図書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤(東京化学同人)
 スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践(東京化学同人)

授業外における学修及び学生に期待すること

医薬品が有効かつ安全に適用されるための院内製剤・薬局製剤、無菌操作、医療安全管理、患者の栄養状態・電解質の過不足の評価に関する知識、技能、態度を修得し、病院や薬局における実務実習につなげて欲しい。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	患者・来局者対応	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目(講義) (中島)	教科書① p 170 ～181 の予習、 配布プリントの 復習	948
2	臨床における心構え	患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の 向上と薬剤師の積極的な貢献(演習・SGD) (大磯・早川・室・神田・大久保・末廣・中島)	教科書① p 11～ 25 の予習、配布 プリントの復習	890
3	医薬品の供給と管理(1)	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理、 薬局製剤・漢方製剤(講義・実習) (講義:大磯、実習:全員)	教科書① p 198 ～199 の予習、 配布プリントの 復習	964、965
4	医薬品の供給と管理(2)	代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時 の注意点(講義) (大磯)	教科書① p 215 ～217 の予習、 配布プリントの 復習	977
5	安全管理(1)	感染予防の基本的考え方とその方法(講義) (大磯)	教科書① p 213 ～222 の予習、 配布プリントの 復習	975
6	安全管理(2)	衛生的な手洗い、スタンダードプリコーション (実習) (全員)	教科書① p 217 ～222 の予習、 配布プリントの 復習	976
7	処方せんに基づく医薬品の調製(1)	基本的な無菌操作(実習) (全員)	教科書① p 148 ～156 の予習、 配布プリントの 復習	930
8	処方せんに基づく医薬品の調製(2)	ケミカルハザード回避の基本的な手技(実習) (全員)	教科書① p 156 ～160 と実習書 の該当部の予習	931
9	処方せんに基づく医薬品の調製(3)	医薬品の配合変化(実習) (全員)	教科書① p 134 ～139 と実習書 の該当部の予習	939
10	処方設計と提案	患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足の評 価(講義・演習) (大久保)	教科書②の p 71 ～73 と実習書 の該当部の予習	1004
11	随時試験	筆記試験と実技試験		

注) 上記の第1回～第11回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。